

第15分野	外来看護(江刺家)
解説	○精神科医療は入院中心から地域支援型へ移行し、精神障害者に地域自立生活支援のための社会システムが形成されつつある。そのような社会情勢から、外来での治療と看護の昨日はますます重要になっている。初めて外来を訪れる方は、精神科を受診することに不安を感じ緊張状態にあることが多い。家族も不安を抱くと同時に、医療スタッフの援助に期待している。外来看護師は患者や家族のこのような状態を理解して対応する必要がある。継続的な外来者に対して、外来看護師は患者様の生活全般を視野に入れた支援を行う。具体的には、病気によって引き起こされる生活上の困りごとは勿論、生活の質の向上を目指した個別的なケアを行うことが必要となる。そのために、他専門職との連携を積極的に図ることが重要。 ○精神科を初めて受診する方にとって、外来看護師の表情や態度、対応は重要な意味を持つ。強い不安状態にある患者様や家族に安心感を与えることのできる、穏やかな対応が必要である。受診に至るまでのそれぞれの苦悩を理解し、今感じている問題に焦点をあて相手に理解される言葉で話し合うことが大切である。また必要事項を文書で渡しておく、ゆとりを持って読めるので効果的である。 ○外来看護は、外来に通院する方の困りごとに応え、その人らしい生活の仕方を知ることから始まる。生活支援には、看護師の主観的な考え方を患者様に押し付けるのではなく、その人らしい生活の仕方を保ながら患者様自身が考え、自分できめることができるよう支援する。
	○危機的状況にある方への看護:患者様は社会生活を送る中で、様々な社会的・身体的・心理的ストレス状況に遭遇している。自分では対処できない状況になるときもある。患者様にとっては援助を求めている行為であっても、周囲の人には理解されず、周囲の誤解を招くこともある。よって外来でも、患者様の今の困りごとに早期に気づき、問題解決へ向けた調整を開始する。自宅において混乱した場合の対処方法については、患者様や家族に具体的に明示し、活用できる社会資源を明らかにしておく必要がある。 ○訪問による援助を必要とする人の看護:精神疾患患者様が療養しながら生活を維持していくには、社会の理解と支援体制が必要である。看護師は患者様の生活上の困りごとを確認し、解決に向けて働きかけるとともに、そのあゆみが確かなものになるための計画を立てる必要がある。患者様の生活の場に安心感を届け、医療を確保する訪問看護は、患者様にとって必要不可欠な援助になっている。
	○チーム医療:外来は通院患者様を支えるだけではなく、入院治療が必要な患者様の入院のための窓口である。入院地・洋画必要な患者様が病棟生活にスムーズに移行できるように、病状、地域生活における生活状況、服薬状況などに関する情報を病棟スタッフに伝え、患者様の心身の安全を守るために患者様に付き添う必要がある。また、病棟から退院していく患者様が地域生活にスムーズに戻ることができるように、日常生活における患者様の目標や希望、自立度、治療に対するコンプライアンス、予測されるストレス因子及び悪化のサイン、残されている看護上の問題などを、看護サマリーとして病棟スタッフより引き継ぐ。退院予定者の継続的ケアの必要性に関する情報を得た段階で、病棟に出向き、患者様と顔合わせをし、退院後に適切なサービスを患者様が利用できるような関係を作ることも必要になる。また、退院後間もない外来患者様には看護師が声をかけ、退院後の生活についての困りごとや必要な援助をさりげなく確認する。患者様のニーズにあった援助を提供することが求められる。外来はあらゆる部門・施設との関連があるため、職種間の情報交換は非常に重要な業務である。朝のミニ検討会、診療課症例検討会議、病棟カンファレンス、他施設とのケア会議などあらゆる機会を利用して情報収集及び伝達を図る。 ○電話相談による看護:身近な相談方法として電話相談がある。電話は手軽な側面が軽視されがちだが、患者や家族にとっても重要なコミュニケーション手段である。ここでも相談者が自ら問題解決できるようにサポートすることが求められる。生活の仕方、社会資源の利用方法などの相談も行われる。電話相談を受けることが多い外来看護師には、より高度な専門的知識と方法が求められる。

	○外来看護において、最もその力が目に見えるのは、外来診察介助である。外来診察をスムーズに介助するためには、患者様の受診スケジュールの把握、患者様の状態把握、患者様の家族背景の把握、検査状況の把握及びデータ管理、病棟の入退院状況の把握、医師や臨床心理士・ソーシャルワーカーなどの他職種のスケジュール把握が必要不可欠である。また、何よりも、短時間の医師と患者様の会話から、医師の治療方針を確認し、患者様にどのような看護ケアが必要か瞬時に判断し行動することが求められる。 ○精神科疾患に関する知識、精神保健福祉法に関する知識、看護一般に関する知識、家族援助に関する知識などが必要とされるが、何よりも病院の顔としての接遇がよくなければならない。
例題1	初めて精神科を受診される方に対し、どのような配慮が必要ですか。
回答	①患者及び家族が話しやすい雰囲気を作る。②今困っていること、生活環境、生活歴などの患者に関する情報を集める。③外来で提供できる医療看護サービスの内容をわかりやすく説明する。④精神保健福祉法に基づいた手続きなどに関してはSWなど適切な職種に説明してもらえよう迅速に対応する。⑤緊急時や夜間の相談窓口を伝えておく。⑥電話対応の内容など病棟スタッフにも迅速、かつ、適切に伝達し、夜間でも継続的なサービスを提供できるような準備を整える。
例題2	外来看護の生活支援について書きなさい。
回答	①来院患者様の様子、生活の仕方に関心を向ける。②患者様が話しやすい雰囲気を作る。③患者様の困りごとを明確化し、優先順位を考えて応える。④安全安楽な生活の場を確保の為に社会資源を活用する。⑤患者様自身が選択できることを心がけ、看護師の価値観を押し付けない。⑥外来を利用する際の待ち時間を短くしたり、待ち時間を有効に使えるように援助する。
例題3	危機的状況にある場合の外来看護の視点を書きなさい。
回答	①初診・再診に関わらず患者様の傾向や状態をよく把握し、患者様の行動の意味を理解する。②人には個性がある。患者様独自の表現を知り、家族や近隣との調整役を担う。③緊迫したときには患者様に安心感を与え、患者・家族・医療者の安全を図る。
例題4	訪問看護の視点を書きなさい。
回答	①患者様に活用される訪問看護を計画する。②患者様の生活の場に安心感を届け、訪問看護を受け入れる確認を行う。③患者様の生活のペースを知り、支援策を検討する。④患者様自身が困りごとを解決できるように一緒に考える。⑤患者様の社会経済参加を支援する。
例題5	電話相談時の看護の視点を書きなさい。
回答	①相談の内容とともに、電話を利用して伝えたい意図を理解する。②その人自身が問題解決できるようにするため、押し付けるような聴き方はしない。③相談の多くなるときには担当性を取るなど、相手に応えられる体制を整える。
例題6	外来診察介助における看護師の役割を書きなさい。

回答	①患者様が安心して診察を受けることができる環境を整える②医師がスムーズに診察できる環境を整える③各部署間の連絡調整を滞りなく行う
例題7	外来診察介助におけるポイントを書きなさい。
回答	①医師が診察待ちの人数を確認できるように、カルテワゴンの前には立たない。②医師の記載事項を確認できるよう医師の前に立つ。③記載漏れがないか確認し、漏れている場合には記載していただく。④医師の診察スピードを考えて患者様の誘導を行う。⑤バイタルサイン測定、注射・処置などは指示を受けたらすぐに対応する。⑥定期的に注射をしている方に関しては、事前に注射の準備をしておく。⑦患者様の状態によっては、医師の指示がなくても男性職員の応援を呼び待機させておく。⑧他者に連絡をする場合には、誰に何をどのように伝えればいいのか考え、無駄・漏れのない情報伝達を行う。⑨患者様やご家族をお待たせする場合には、看護師から声をかけ、待ち時間の不快を軽減できるような働きかけをする。